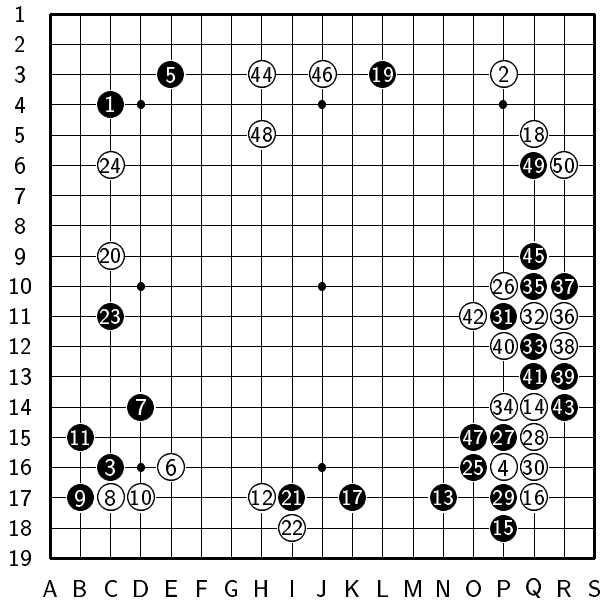


1996年 第2回 FOST 杯, 1996年 9月 13日, 場所: 日本棋院

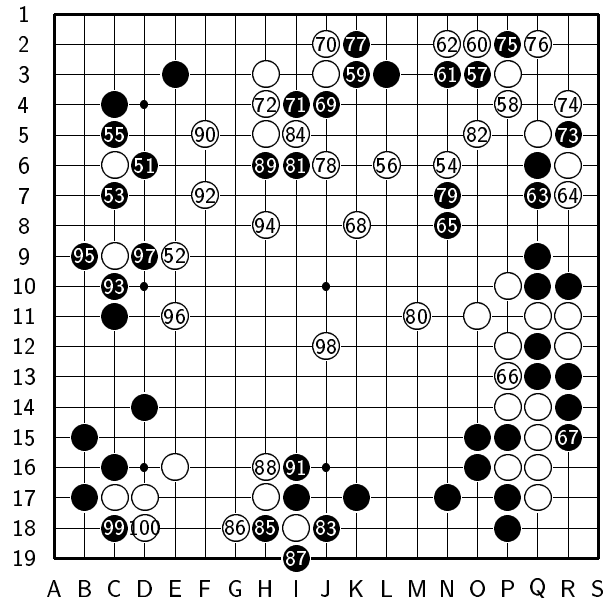
黒: 勝也

白: Handtalk(287目半勝ち)

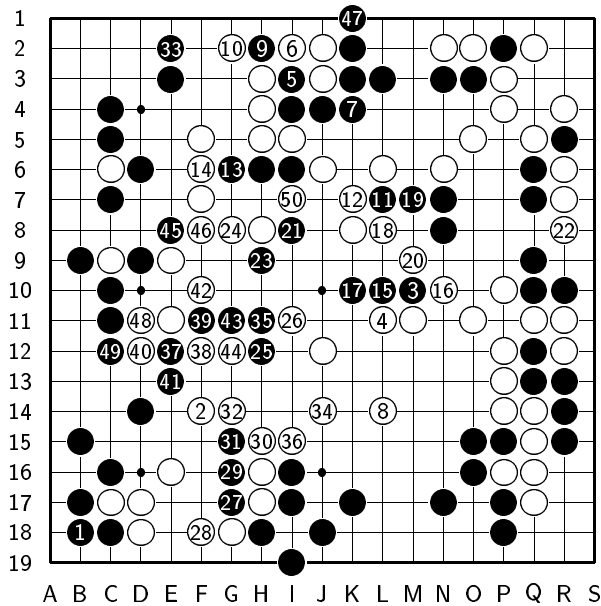
1 ~ 50



51 ~ 100

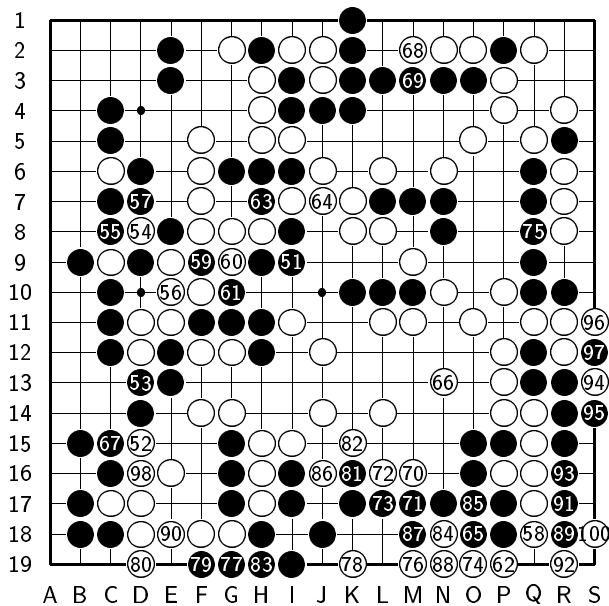


101 ~ 150

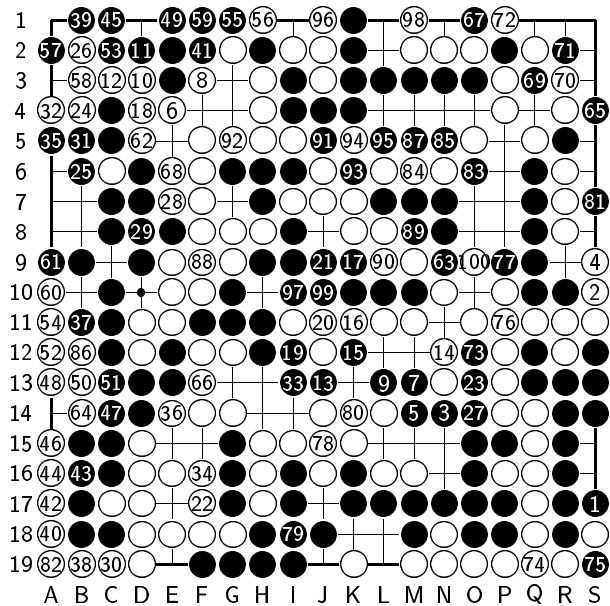


初めはとっても綺麗な布石。しかし定石が終わってか
らが問題。黒 37 は単にオサエの手のつもりで打った。
白を取れると錯覚したわけではない。黒 39 も同様。
当時の勝也は、この二手が悪手であることがわから
なかった。黒 21、黒 49、黒 57 と、当時の勝也はツ
ケが好きである。プロの棋譜から採取したデータを
基に手を生成しているからだろう。なんとなくそれ
らしい手を打っているが、後が続かない。意図など
なく、単に形で打っていると、こうなる。150 手ま
で進んだところで、もう 100 目以上負けている。

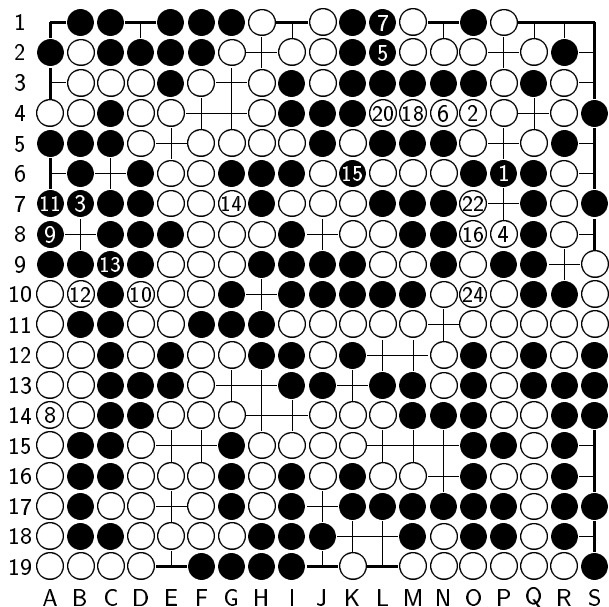
151 ~ 200



201 ~ 300



301 ~ 324



黒 199(S,13), 黒 317(PASS), 黒 319(PASS), 黒 321(K,5)
 黒 323(PASS)

白は全く危なげなく、差を広げていく。唯一の悪手は白 292 と黒をアタリしたことぐらい。黒は放り込みでダメを詰めて白 3 子を取るという、今までの嘘のようなまい手筋を放つも、後が続かずに死んでしまった。優勝プログラムとの差を実感させられた試合だった。